

今後の展開について

川根高校の魅力化の1つ「川根留學生制度」は、直接的には県内外からの入学生数を増やし、川根高校の存続を図るというものです。その他にいくつかの大切な重要な目的や意義を持っています。

まず1つ目は、この川根地域全体の活性化です。川根高校に多くの川根留學生と地元の子どもたちが入学してくれることにより、川根高校が元気になる。結果として川根地域全体が元気になると考えています。

2つ目は、この川根留學生制度の取組が、地元の子どもたちにとっても非常に大きな意味を持つということです。

本町のように中山間地にある学校には、昔からの顔なじみで、同じ価値観を持つ子どもたちが集まりやすい傾向があります。

卒業後に地域を離れ、いずれは都会に出ていくことが多いい子どもたちにとって、価値観の違いなどを高

校在学中に経験し、社会に出るから色々な人たちと働いていくことができるコミュニケーション力を身に付けていくことは、大変意味のあることです。

この「留學生制度」は、多様な価値観を持ち、「川根高校で勉強や部活動、あるいは地域活動に頑張りたい」という生徒に県内外から来ていただくための取組です。

異なる価値観を持ち、高い意欲と目的意識を持った同世代の仲間たちと高校3年間を過ごすことは、間違いなく地元の生徒にとっても、留學生にとってもお互いにプラスになることが多いと考えています。



3つ目は、留學生が高校3年間をこの川根地域で過ごし、ただ勉強や部活動を頑張るだけでなく、同世代の生徒はもとより、地域の多くの皆さんとのふれあいや素晴らしい自然環境の中での様々な体験をすることで、この地域への愛着を持っていただけるものと思っています。

事実、現役の生徒や、卒業していった留學生の中には「将来この地域に戻ってきて、何かの役に立ちたい」と言ってくれている方も少なくありません。

この地域への「愛着」を持つということが非常に大切

なことであり、その気持ちが必要ならば「将来ここに帰ってきたい」や「この地域の役に立ちたい」という気持ちにはなりにくいのではないかと考えています。

町では、川根留學生だけでなく、地元の子どもたちにもこの川根地域及び川根高校の良さを充分に感じていただき、将来「ターン」や「リターン」、あるいは「スターン」(都市部から川根本町に来て、高校卒業後に都市部の大学等に進学し、さらに卒業後に町に帰ってくる)によって、この地域で若い方々が生き生きと活躍できる町にしていきたいという夢を描いています。

町が目指していることは、県内外から多くの留學生



生に来ていただくことももちろんですが、それとともに地元の子どもたちや保護者の皆さんに「入学したい・させたい」と思ってもらえるような「川根高校」にすることが大切です。

言うまでもなく、最終的に高校を選ぶのは子どもたちですが、大切なことは「どの高校に入るのか」ということよりも、どの高校に入学したとしても「その高校で3年間何をどのように頑張るのか」ということだと思えます。

今後、川根高校に対し、町民の皆様からのあたたかなご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

留学生などの受入れ体制について

現在、川根留學生などのために整備した寄宿舍は町内に3つあります。いずれの寄宿舍も24時間の管理体制のもと、食堂での食事の提供のほか勉強するための机や生活に必要な家具を用意した個室を完備したもので、保護者の方からも「安心して預けられる」との評価をいただいております。

若者交流センター「奥流(おうる)」

平成28年4月にオープンした施設で、川根高校から徒歩で7～8分の場所に建設されました。それぞれ4畳程度の個室を備え、最大で男子17名と女子18名の計35名が入居できる施設となっています。現在は男子6名、女子12名の計18名が入居していますが、寄宿舍としての機能のほか、館内の交流スペースを活用して「公営塾」の教室としても活用されています。



「南麓寮」

川根高校の目の前にある旧徳山診療所を改装した施設で、最大17名が入居できる男子専用の寮となります。旧診療所の建屋を改装した東館と増築した西館の2棟で編成され、6～8畳程度の個室を備えており、川根高校まで徒歩1分の立地が特長です。現在は16名が入居しています。

「崎平よすが苑」

この4月から町が借り上げた元中部電力の単身寮で、定員は20名となっています。この寮も男子専用で、現在は19名が入居しており、全員が野球部員です。位置的には川根高校からもっとも遠い寮となりますが、青部バイパスの開通により自転車での通学が安全かつ短時間(10～15分程度)で行えるようになったほか、大井川鐵道の崎平駅が近くにあるため、電車による通学も可能となっています。



留學生たちの「親」代わり サポートファミリーを募集しています

町では、学校のこと、友達のこと、部活のことなどいろいろな相談の相手になっていただくことや、地域の祭りや行事、町内の観光地などの案内をしていただいたり、時にはご自宅で食事を一緒に食べたりなど、親元を離れて生活している留學生たちの「親」代わりとなっていただける「サポートファミリー」を募集しています。

この「サポートファミリー」はどなたでもご登録いただけますが、原則として無償ボランティアとしての活動となることをご承ください。関心のある方は、ぜひ教育総務課<☎(58)2555>までお問い合わせください。

